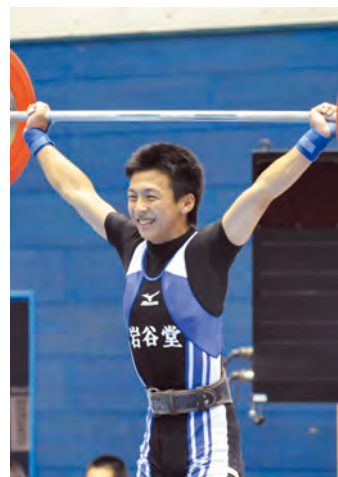


CONTENTS

- 2 情熱の奥州人
- 4 特集 後藤寿庵福原就封^{しゅう ほう} 400 年
- 8 市内公共施設で放射線量を測定
- 10 平成 24 年 4 月採用市職員を募集^{ほか}
- 13 奥州三大マラソン大会に参加しませんか
- 14 市の出来事から
- 16 まちの話題
- 18 つながれ 広がれ NPO の輪
- 20 子そだて広場
わが家のアイドル
- 21 消費生活相談
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
子ども喜ぶ人気メニュー
- 22 キラリ人輝く
夢トーク
- 23 クラブ紹介
ぼんたのつぶやき
- 24 くらしの情報
- 28 奥州遺産

〈今月の表紙〉



インターハイウエイトリフティング競技が8月3日から6日にかけて開催。会場の江刺中央体育館では選手たちが熱い戦いを繰り広げました。

4日の56^{キロ}級では、^{よもぎ}文幸太選手（岩谷堂高3年）がスナッチ、クリーン&ジャーク、トータルの3種目制覇で完全優勝という快挙を達成。競技終了後のインタビューで、「自分の優勝が岩手の力になってほしい」と岩手県全体を勇気づけました。



イベントで絵を描きあげる薫さん（北上市内にて）

キャンバスに命を宿らせたかのように、絵筆を滑らせる姿は、集中以外に言葉が見つからない。音楽に合わせて絵を描く「ライブペイント」という分野で、東北では先駆者の加瀬薫さん。自らのことを画家とは呼ばない。「画家と名乗ると敷居が高くて、嫌なんです」と、はにかみながら話す。描く場所を問わないため、親しみをこめて「街絵師」と名乗る。

幼少の頃から描く事が好きだったが、本格的に絵を描き始めたのは中学生のとき。「絵がうまい同級生がいて、悔しかった」。このころ、将来は絵で生活しようと決める。高校卒業後、仙台の専門学校でデザインを学び現在の礎を築く。帰郷し工場などで働く

が、平成15年23歳で描く楽しみを捨てきれずに街絵師に転身した。創作活動は衣川区大平の自宅で行う。活動の場はライブペイントで関東地方へ行く事や、依頼を受けて店舗の壁画を描く事も。年に数回、ポストカードの企画展も開催する。仕事の合間には、趣味の映画鑑賞でイマジネーションにつなげる。

さまざまな画材を扱うが、墨で描く動物が好きだという。「暗い色で、濃淡の違いや光を感じてもらいたい。動物は表情の見かたが、人によって違う。絵には終着点がないし、仲間の絵が刺激になり創作意欲につながる」。薫さんが描く絵は、見る者を引き込む力を持ち、想像をかき立てられる。



⑪

筆を自在に操りキャンバスに命を吹き込む街絵師

加瀬 薫^{かおる}さん（31歳）
Ⅱ 衣川区大平Ⅱ



かせ・かおる◎昭和55年^{昭和}衣川区大平生まれ。No.06の名で、作品の販売をインターネットでも行う。祖父母、父母、妹の6人家族。